

若者の海外留学促進のための関係省庁等連絡会議（第 1 回）  
議事概要（案）

【日 時】平成 25 年 12 月 10 日（火）10:00～10:30

【場 所】内閣府本府庁舎 3 階特別会議室

【出席者】古谷 内閣官房副長官補、石井 内閣官房内閣審議官、  
布村 文部科学省高等教育局長、渡辺 文部科学省高等教育局学生・留学生課長、  
齋木 外務省国際文化交流審議官、宮野 厚生労働省職業安定局次長、  
菅原 経済産業省経済産業政策局長、小川 経済産業省大臣官房審議官（雇用・人材担当）、  
吉田 観光庁観光地域振興部長

【議事要旨】

開催に先立ち、冒頭、古谷官房副長官補から挨拶があった。

（議事 1）若者の海外留学促進のための関係省庁等連絡会議の立ち上げについて

布村文部科学省高等教育局長より、設置趣旨の説明があり、全会一致で設置が認められた。

（議事 2）若者の海外留学の現状及び留学促進に関する取組状況について

資料 2 に基づいて、文部科学省より説明があった。

資料 3 に基づいて、関係各府省庁よりそれぞれの取組について説明があった。

（議事 3）若者の海外留学促進アクションプラン（仮称）について

（議事 4）今後のスケジュールについて

資料 4 及び資料 5 に基づいて、文部科学省より若者の海外留学促進アクションプラン（仮称）及び今後のスケジュールについて説明があった。

その後、以下の通り発言があった。

（布村 文部科学省高等教育局長）

アクションプランについては、今後各省と協議の上、肉付けしたい。随時情報交換、意見交換の場を持たせていただければと考えている。

（石井 内閣官房内閣審議官）

今後のアクションプラン策定に向けて、留学には長期、短期など色々な形態があるため、ある程度規模間含め、対象をどのへんに絞るのか検討いただきたい。米国留学減少につ

いて、学費の問題もあるが、英語の問題も大きい。TOEFL も iBT など以前より難しくなり、日本人ではなかなか点数がとれない。語学力の強化はカネかかると思うがその辺の分析もお願いしたい。

(布村文部科学省高等教育局長)

御指摘のあった英語教育については小学校5年生から今始まり、実践的なコミュニケーションの力としての英語の力をつけようということ、大学入試でもトイフルの活用が大きなテーマとして教育再生実行会議で提言されており、現在検討しているところ。方向性が見えればアクションプランにも盛り込みたい。第2回はアクションプランが固まった段階で改めて日程調整したい。

(了)